



家族の一員として

チャーリー（オス15歳）佐々木 久美子さん（松尾台）

佐々木家のチャーリーは、佐々木さんがお孫さんを抱いているとやきもちをやく甘えん坊。佐々木家に初めてやってきた時、エプロンのポケットにすっぽり入るほど小さな子犬でした。それから15年間、チャーリーは家族の一員として、いつも皆といっしょに過ごしてきました。チャーリーはまだ、歯もしっかりしていて食欲も旺盛ですが、ここ一年で足が弱り、フローリングの床を歩くとすべるようになりました。佐々木さんは床に敷物を敷いて立ち易くしたり、トイレ用のシートを広く敷き詰めたりして、チャーリーが生活し易いように工夫しています。



▲抱っこされて幸せ～

佐々木さんは、「チャーリーにはずっと元気でいてほしいです。最後まで一緒に楽しく過ごしたいと願っています」と語られました。

最後の時もそばに

ボン（オス19歳）竹内 里美さん（松尾台）

子猫だったボンが竹内家にやって来て19年。事あるごとに話しかける竹内さんに、ボンは「ニャア」と鳴いて返事をします。最近では高い所に上ることもなくなり、寝ている時間も長くなりました。体温調節が難しくなってきたボンのために、竹内さんはエアコンをつけたままで外出します。

かつて、竹内さんはハナというメス猫を飼っていました。ハナは急性腹膜炎で、2週間に渡る竹内さんの看護の末に亡くなりました。竹内さんは納得のいくまで看護したことで、気持ちの整理がついたと言います。

ボンも老齢になり、腎臓と肝臓の働きを助ける点滴を毎週打つようになりました。竹内さんは「ボンの最後の時も、そばについてやりたいと思います。ボンが気になるので今は家を長く空けることはありません」と、思いを語られました。



▲なでなでは気持ちいいニャー

元気で長生きするワンニャン！

長寿犬・長寿猫を表彰



今日は何して遊ぶのかなあ？

皆さんの飼っている犬や猫は、今、何歳ですか。兵庫県獣医師会では、毎年、長寿犬・長寿猫の表彰を飼い主の希望により行っています。対象は15歳以上の犬と、18歳以上の猫で、これは人間の年齢に換算すると80歳以上です。今回は、今年度その表彰を受ける犬や猫の中から、町内に住む3匹のお宅を訪ね、飼い主に、長寿の秘訣とペットへの思いを伺いました。

あなたはよき人生の伴侶として、永年にわたり家族に喜びと楽しさを与えてくれました。よってここに長寿を讃え表彰いたします

長寿犬・長寿猫への表彰状の内容

飼い主の支えを表彰
近年、飼い犬や飼い猫の平均寿命が延びています。それは室内で飼うなど、飼育環境が良くなったことと、健康管理に努める飼い主が増えたことによるものです。長寿犬・長寿猫の表彰には、犬や猫を深い愛情と正しい管理のもと、長年にわたり大切に飼育してきた飼い主を讃える目的もあります。そして、飼い主は、家族の一員として一緒に過ごした証に、表彰を希望されるようです。

健康で長生きさせる飼育方法について、「ハンダ動物病院」の半田勝彦先生にお話を伺いました。犬や猫は、人間より速いスピードで歳をとり、9歳頃から老化が始まります。毛の色が薄く、白髪混じりになる。後ろ足の筋肉が衰え、動きが鈍くなる。体型が変化する。寝ている時間が長くなる。歯が脱落するなど、さまざまなサインが表れます。また、心疾患・癌などの生活習慣病や、白内障・認知症にもかかり易くなります。日頃からよく観察し、いつもと違う様子があれば、獣医に相談しましょう。

【環境づくり】
体温の調節機能が低下しているため、エアコンなどで温度調節をします。外で飼う場合、夏はよしずを立て掛け、風通しのよい日陰を作るなど、暑さ対策をします。また、運動機能低下しているため、移動し食べ物を与えると、ペットから人に感染する病気があるため危険です。【定期的な運動】
毎日の散歩で、足腰を鍛えます。今の時期は、早朝や夕方、涼しい時間帯を選び、熱中症に気をつけます。【病気の予防】
フィラリアを予防し、ワクチン接種・健康診断を受けます。また、避妊・去勢手術を早めに受けることで、生殖器系の病気に罹りにくくなります。最近では、病院でかかる治療

長寿の秘訣！暮らしの中でできること

【食事】
高齢用ペットフードなど、栄養バランスの良いものを与えます。人間の食べ物には味が濃く、肥満や病気の引き金になります。また、飼い主が口を噛むと、動物もそれを真似て噛むことがあります。【体の手入れ】
体の変化をいち早く見つけるために、手入れすることが大切です。また、2週間1回、皮膚病予防を兼ねて体を洗います。

一日でも長く一緒に

チビ（オス15歳）木村 恭子さん（伏見台）

チビが木村家にやってきたのは15年前。若い時は他の犬に吼えかかるやんちゃなチビでしたが、最近は歳をとって性格が丸くなりました。木村さんは笑います。3年前から心臓が弱り、薬が必要になりました。耳も聞こえませんが、それを良かったと木村さんが思うのは、雷が鳴った時です。大嫌いな雷にチビが怯えることは、もうなくなりました。

「チビは娘達と一緒に大きくなり、我が家の長男のようなものです。側にいると心が癒されます」と語られる木村さんは、足の弱ったチビを朝夕ゆっくり散歩させ、蚊取り線香を炊いて病気を予防し、夏場は特に水分を十分摂るように気をつけています。

チビが一日でも長く生きてくれることが木村さんの願いです。



▲さあ、散歩に行こう！

後編 編集

生き物はかわいいため、飼っている動物は面倒なこともたくさんあります。歳をとると介助も必要になります。人間と同じなのですね。最後には、どうしても避けられない悲し

い死もやってきます。ペットを飼うということは、それらを全部引き受けるということなのだ。今回の取材で思いました。私達も、ペットが最後まで幸せであるように責任を持つて飼いたいものです。

【いながわ特派員】

9月20日～同26日は動物愛護週間

動物を大切にすることが正しい飼育方法について考えてみましょう。
・フンの後始末をする。
・近所の迷惑にならないよう注意する。
・犬を放したまま散歩しない。
最後まで愛情と責任をもって飼育しましょう。